

はじめに

本研究所は、「がんに関する学理およびその応用」の研究を目的に、がん研究に関わる文部科学省唯一の研究所として、昭和 42 年に創立されました。創立以来、OK432 の開発、がん転移に関わるタンパク分解酵素の発見など、がんの基礎ならびに臨床研究に多くの成果を挙げてきました。

近年がん研究に対して、基礎研究の成果を診断・治療法の開発に結びつける努力を一層強く求められています。このような社会的要請に応えるべく、今日のがん診療において未解決な点が多い、“転移”“薬剤耐性”などのがんの「悪性進展」過程の克服を、本研究所の最大の使命と位置づけるに至りました。平成 22 年 4 月の基礎研究分野の角間キャンパスへの移転と軌を一にして、「悪性進展」過程克服を目指した、がん細胞の源である「がん幹細胞」とがん組織中の「微小環境」の実態解明の研究を機動的に進めるために、「がん幹細胞研究プログラム」「がん微小環境研究プログラム」「がん分子標的探索プログラム」「がん分子標的医療開発プログラム」の 4 プログラム制へと改組いたしました。さらに、研究所の使命を一層明確にするために、平成 23 年 4 月より「金沢大学がん進展制御研究所」へと改称いたしました。

金沢大学全体が目標として掲げている「東アジアの知の拠点」形成の一環として、がんの「悪性進展」過程の国際的な研究拠点の形成を目指して、平成 20 年度よりがんの「悪性進展」過程に関わる共同研究を全国公募にて行ってきました。平成 22 年 7 月には「がんの転移・薬剤耐性に関わる先導的共同研究拠点」として文部科学省より認定され、平成 23 年 4 月より共同利用・共同研究拠点として活動を開始いたしました。

今回の外部評価では、研究分野ごとの研究活動を評価していただく評価を書面にて行いました。さらに平成 24 年 10 月 31 日には全体評価委員の先生方のご出席のもと公開シンポジウムを行い、翌 11 月 1 日は研究所全般ならびに各プログラムの現状を紹介した後に、全体評価委員の先生方から本研究所の共同利用・共同研究拠点活動を中心とした運営方針ならびに研究活動についてご助言を賜り、その詳細について後日書面にてご報告いただきました。

評価をお願いした諸先生方には、ご多忙中にもかかわらず、本研究所のために貴重なお時間を割いていただき、多くの貴重なご提言を賜り、改めて御礼申し上げます。今後の研究所運営にあたっては、最大限ご提言の趣旨を所員一同生かしてまいる所存です。

報告書の公表にあたり、今後とも関係各位のご意見、ご提言とともにご支援をいただきますよう、心からお願い申し上げます。

平成 25 年 3 月

金沢大学がん進展制御研究所長 向 田 直 史